

## 14: もったいない



Wikipedia で「もったいない」を引くと下記の説明がある。

『もったいない（勿体無い）とは、仏教用語の「物体（もったい）」を否定する語で、物の本来あるべき姿がなくなるのを惜しみ、嘆く気持ちを表している。

もともと「不都合である」、「かたじけない」などの意味で使用されていたが、現在では一般的に「物の価値を十分に生かされておらず無駄になっている」状態やそのような状態にしてしまう行為を戒める意味で使用される日本語の単語である。』

夕食に出された魚を子供が食べ残したのを見てももったいなくて、あとで酒の肴にして骨までしゃぶってしまう。特に皮や頭や頬など一番おいしいと思う部分がいつも残っている。

まあ、同じ家族内だからこそ許される事なのか。流石に料亭で人の食べ残しを再利用するのは、いかに環境にやさしい選択とは言え、どうなのかと思う。

似たような事が3ヶ月前にあった。この時は、本来使い古しを使って紙を作らなければいけなかったのに、新品を使ってしまったので世間に怒られてしまった。「もったいない」精神が足りない！！というわけだ。

ああ、難しい。基本的にエコとはローコストでなければならぬと思っている。エコは無駄な資源を使わないことであり、無駄な資源を使わないことはローコストにつながる。古紙再生はおそらくそのためにより無駄な資源が必要だった、ということなのだろう。LOHASとか言って随分高い商品売りつけるビジネスモデルは欺瞞ではなかろうかとひそかに疑っているのである。

船場吉兆も「これは残り物の再利用ですので半額にしておきます。」と言って出せばよかったかも知れない。それでも僕は断ったと思うが。かりにローコストであってもビューティフルでないものは嫌だ。



(2008.5.8)

